

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（営業担当）	単価の動き	・高単価商材の動きが良く、買物をすると決めた客の来店が多い。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店向けが前年比111.2%、コンビニエンスストアが前年比100.1%、ローカルスーパーが前年比110.6%と、量販店とローカルスーパーが前年を10%上回っている。特に食パン、菓子パン、和菓子、デリカ、米飯が好調に推移している。量販店で割引セールを頻度を増加させ、売上増につながった。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・10月はゴルフシーズンであるが、今年は例年以上に好調で、売上は前年を30%上回った。
やや良く なっている		商店街（代表者）	単価の動き	・売れている品数は少ないが1品単価が高いため、客単価が上がっている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・ギフト、贈物としての花の需要が多くなっており、開店祝の花の注文・依頼が例年以上にあった。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・来客数が増え、良くなった。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・客の購入動向を見ると、欲する物が見つければ購入する傾向にある。
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・家電関係では全体的に買換え需要があり、特に薄型テレビ関係が動いている。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・客の買上点数が増えているのに加え、平日の販売量が増えている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	それ以外	・売上、客単価共にあまり変わりはないが、近隣地区にて新規開業の店があった。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・来客数が増加し、特に県外の客が増えた。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・大分市内ではホテルの新規参入が相次いでいるが、それぞれ稼働を維持しており、市内への来客が増加していると考えられる。ビジネスが活発に動きつつある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年比115%で推移しており、海外ではヨーロッパの高額商品が売れ、国内でも北海道・東京等の遠距離商品が好調である。国内航空券販売が復活し、ビジネス出張も増加傾向にある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・非常に活発に人が動いており、若干景気は上向いている。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・10月からキャンペーンを始めており、その効果が出ている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・番号ポータビリティの直前までは、買い控えと予約受付のため販売数が低迷したが、24日以降は順調に販売数が伸びている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・来場者が前月より増加している。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・注文住宅の契約が成約し始めており、景気は良くなっている。
変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・中心街には人通りが少なく、客が求める商店がないため、商店街は機能していない。その上空き店舗がずっと埋まらず、郊外の大型商業施設に客が流れている。
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・大分冷えてきて客の動きも少しずつ活発になってきている。しかし、土日は来客数が少ない。
		商店街（組合職員）	お客様の様子	・中旬に中心市街地で市民祭りが行われた。観客は数万人と多かったが経済効果は今一つであった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・気温が低くなり、その分食品の管理もしやすくなったが、来客数が少ない。我々商店街の周辺に大なり小なりのスーパーがオープンしている。24時間営業のところもあり、夜型の客が多いので駐車場もない商店街はかなり危機感を感じている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・行楽シーズンに入り、天候も良かったため観光客の通りは目立っていた。1年中で最大のイベントである唐津くんちを控えている月であったが、財布のひもは固かった。

商店街（代表者）	販売量の動き	・売上は変わらないが、客の様子を見ると、少しずつ購買意欲が高まっている。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・朝晩と涼しくなってきたが、売上は変わらず伸び悩んでいる。客は少しでも出費を抑えている。
百貨店（売場主任）	それ以外	・気温が高く推移している割にはコート、セーターの動きが順調である。気温が例年並みになると更に売上は伸長する可能性がある。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・客の購買意欲は若干上向きなのだが、気温が高めに推移し冬物へのシフトが昨年ほど活発ではないことや、地元球団関連のセールが盛り上がり欠けたことがマイナスとなっている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・創業70周年という大きなセールをしたため、一時的には売上が上がったが、月を締めると前年比98%にとどまっており、小売業にとっては厳しい状況が続いている。また、寒さが今一つで冬物婦人服の不振につながっている。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・百貨店としての提案商品や、個別のヒット商品、付加価値のある商品の動きは良いものの、全体の底上げには至っておらず、店舗合計では昨年実績を落として推移となっている。一方市内の大型量販店は、実績を超えて推移している。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来客数が前年比98%台で平均推移より若干良い。今月部門別で良いのは食料品だけである。温度が上がっているため衣料品の動きが良くない。家庭用品が引き続き悪く、前年比80%台である。さらに外商部門で高額品の宝飾、時計等で若干苦戦している。
百貨店（業務担当）	販売量の動き	・今秋は、朝夕の冷え込みがはっきりしていることから、衣料品の動きに期待したものの、実売期に入ってから動きが弱い。コーディネートする購買から目的をもったアイテム買いが目立つ。結果として立ち上がりのプラスが徐々に無くなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・競合数の増加で店舗年齢の古い店の数値が厳しくなっている。青果物の相場高は好影響であるが、牛肉の相場高はその逆で、売上を圧迫している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数は前年比0.5%減少しているものの、売上は前年比4%増となった。食料品と住居において、販売頻度の高い商品の品切れ防止に努めた結果、買上点数が上昇した。衣料品は前年比5%減と苦戦しているが、旅行関連のかばん、靴、羽織物などは非常に好調である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・デイリーから生鮮等食品の動きが非常に良い。反面、暖冬により肌着、アウター等衣料品が軒並大きく前年割れである。販売量が食品以外の分野で減っている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・気温がなかなか下がらないので、衣料品、住居用品共に防寒用品の売行きが今一つ伸びない。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・客の買上点数があまり伸びず、客単価、単品単価もあまり伸びていない。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・上旬は気温が昨年よりも低めに推移し、おでん・鍋商材を中心に動きが良かった。夕方の品ぞろえ強化により客単価のアップにつながっている。中旬以降は気温の上昇により鍋関連商材が停滞した。また、競合店オープンにより来客数が大きく減少した。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・気温が暖かく鍋物商材や衣料品の動きが悪い。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価は増加基調の店も出てきているが、来客数は前年を割っている。結果として売上は前年を大きくクリアすることはなく、一進一退で動いている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・行楽シーズンということもあり、先月と比較して来客数が前年比105%とまずまずの数字が出た。しかし、客単価は前年比98.5%と振るわなかった。客は不必要な商品は買わないという状況であり、販促をもっと強化する必要がある。

	衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・購買は確実に二極化している。3か月前はセール時期で一般の客が安いものを1点だけ買うという状況であったが、裾野が広がり、好調であった。今月は高額所得者の客が購入する正価販売品の月であったため、比較的良い売上を上げることができたが、一般の客の購入は少なかったため景気が上向きではない。
	衣料品専門店 (総務担当)	来客数の動き	・ヤング婦人服は客足が悪く、売上が前年比8%減、ミセス婦人服は前年比同額、呉服売上は来客数が減少した。反面、宝飾品の売上は前年比で増加した。総じて前年割れが横ばいになっている。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・農畜産の忙しい時期になり、例年来客数が落ちるが、今年は特に来客数の減少が目立つ。
	乗用車販売店 (管理担当)	お客様の様子	・自動車の販売は非常に厳しいが、整備については非常に良い。少しでも長く大事に乗ることが整備の好調さにつながっている。しかし買い控えやコンパクトカーへのシフトにより、販売が非常に厳しい。
	乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・来客数はかなり高水準であるが、販売量は増えてはいない。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・燃料油の仕入価格も下げ基調となり、小売価格も値下げの局面に入りつつある。セルフに流れた客も戻りつつあり、10リットル、20リットル購入の客も満タン購入に戻りつつある。ただ、そろそろ新車への買換え時期であるが、新車の販売はあまり良くなく、現在の車の車検を実施する客が多い。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・例年この時期は、客の多くを占める農業関係の方が農繁期になるので、夜の客が減ってくる。観光客等が多い昼の動きは変わらないが、夜の客が減るという流れは変わらない。来客数も例年どおりである。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・週末であっても人の流れにあまり活気が感じられない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・天気が良いせいか、昼間のタクシー利用が少なく、朝夕は忙しいが、夜中に一波来て終わりという状況である。
	観光名所(職員)	来客数の動き	・天候も良く、観光施設、ゴルフ場とも良くなるはずが、入園者、入場者数は昨年より10%ほど落ちており、景気が良くなっているとは実感できない。
	設計事務所(代表取締役)	お客様の様子	・建設関係は、環境重視や低価格などの特徴のあるマンションや戸建て住宅の販売が上昇しているが、これらは一部のメーカー、販売店に限られている。公共事業関係の建設事業の発注は減少し続けており、受注の際にダンピングをせざるを得ない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の中心部では、依然として通行量が激減している。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・来街者数、売上共に悪い。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・10月は天候にも恵まれたが、なかなか客足、販売量とも伸びず苦戦している。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・定価の商品の動きが悪く、厳しい状況である。コート、ジャケットがなかなか定価で売れない。一方、バーゲンの数字が好調ということで、マーケットとしてはお買い得品を求める動きに変わりはない。時計、宝飾の超高額品の動きは良く、二極化している。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・今月は天候は良好なものの、気温が高く秋冬物重衣料を中心に売上が伸び悩んでいる。来客数も前年に比べ減少傾向である。
	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・来客数が前年に届かず、良くない。大催場で大型新規物産催事を開催したが、好評で来場者、売上が伸びた。しかし、全体の来店客数の減少は補えない。また、近郊での新ショッピングモールのオープンによる影響も大きい。加えて中旬以降気温の高い日が続いたことで、衣料品への関心が薄く苦戦している。
	百貨店(営業担当)	単価の動き	・中旬より気温が高く、季節商材の販売に苦戦した。
	百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・気温が高いため、重衣料の動きが悪く、客単価が大幅に落ちている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・暖冬のせいか、衣料品の売上が悪く、前年比79.9%となった。

		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は昨年以上に推移しているが、気温が非常に高く、冬物衣料品、インテリア関係、服飾が悪くなっている。昨年は水害特需があり、今年は反動減となっている。
		衣料品専門店	販売量の動き	・まだまだ暑いので、冬物を求める客が少なく、販売量も自然と減っている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・売上不振は10月も続いているが、月末にかけ少し秋物衣料に動きが出た。しかし、この動きはこのまま続かない。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・10月になっても気温が下がらないため、ジャケット類の売行きが悪い。来客数は増えたが、実際に購入する客は少ない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・例年10、11月は良くないが、今年は特にパソコン関係が悪い。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・10月初めの木工祭でメイン会場への来客数は多かったが、各店への来客数は逆に年々減少している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・病院へ行く際のお年寄りのタクシー利用が減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・朝昼の乗客は病院や買物に行く客で、これまでと変わらない。夜になると繁華街が飲酒運転の取締りや会社によっては飲酒を控えるようにという通達が出ており、動きが鈍い。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・3か月前から発売額の減少が続いている。現在のところ回復の兆しがない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・依然として、来客数が減っている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・来客数が減少しており、厳しい。
	悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・来客数、客の様子、客単価すべて悪い。台風も来なかったため、青果物が豊作で全国的に安値であり、客の購買心が上がらない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前年に比べ来客数が約1割減少しており、特に衣料品関係の落ち込みが激しい。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・受注台数が極端に悪くなっており、経営が悪化している。
企業動向関連	良くなっている	金融業	競争相手の様子	・銀行の貸出競争が激しくなっている。優良取引先の融資の取り合いは以前からあるが、やや財務内容が劣る先まで低利での融資の奪い合いがみられる。
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節性のある商品の受注が、3か月前より多くなっている。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・原油高等で原材料の高騰、スチールやアルミなども値上がりしている中、需要はおう盛のまま推移している。また、受注価格も原価高騰分の上昇がある程度認められてきた。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・今後の引き合いや先々の開発案件の話も挙がっており、明るさがある。
		電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・人材育成、社員教育の効果が出ており、良くなっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は大手中堅企業共に活発に動いた。また、精密機械部品の動きも非常に良い状態である。
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・店舗の改装、増築等の引き合いが多くなっている。また建築工事では型枠大工が不足しており、福岡や鹿児島等から型枠大工を融通できないかと頼まれている。
		通信業	受注量や販売量の動き	・物件の引き合いや受注量が多くなり、人手不足が発生している。
		金融業（営業職 渉外係）	受注量や販売量の動き	・番号ポータビリティの導入により、携帯電話の買換え意欲が全国的に広がっており、一部消費意欲が高まっている。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価が大口化しており、取引先は確実に景気回復している。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この時期は年末年始用の特殊需要で各メーカーへの対応で忙しい時であるが、今年は例年ほどの動きがない。居酒屋関係は順調に伸びているが、スーパー向けの商材が一つである。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注関係は横ばいであるが、ある企業は大分落ち込んでいる。家庭用食器、ギフト用品は相変わらず低迷しているが、業務用で幾らか明るさが見えている。

	窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・全体的には景気は良くなっているが、中小企業や零細企業は石油の高騰や人材不足等により業績が悪くなっている。大手企業のリストラ等が進み、下請け企業の人材派遣も行っており、良くなっている。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・良いとは言い切れないが、受注量は改善してきた。	
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・全体的に荷動きは悪いが、特に衣料品、飲料水等が悪い。	
	通信業（経理担当）	それ以外	・県下の企業誘致件数が前年に比べて倍以上に伸びている。中でも半導体や自動車関連企業の誘致が相次いでおり、建設の前倒しや追加投資が予定されている。ただし地場の中小企業は、同業種においても二極化が進んでおり、早めに設備投資や人材育成に取り組んだところとの差が出てきている。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。	
	新聞社（広告）	取引先の様子	・取引先の流通各社の様子を見ると、秋物の売行きが悪い。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・取引先の輸送関係の会社で、燃料費の高騰が響いており、かなり苦しいという話を聞く。衣料品関係等は天候が良かったため、秋冬物の販売が伸びていない。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量に変化がない。	
	やや悪くなっている	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・飲酒運転取締りにより、飲食店の売上が前年比30%減少している。この影響で酒量販店の売上ダウンが続いている。
	悪くなっている	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・インターネット広告が増えている。
雇用関連	良くなっている	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・企業の採用意欲が上向いてきている。派遣社員の需要は前年比10%以上の伸びを示している。また、正社員採用需要については、年間予測数値を上期で既に前年数を上回った。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・10月までは順調だった売上伸張も、鈍化が予測される。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・番号ポータビリティによる競争激化により、販売員の依頼が大幅に増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・大型商業施設オープンに伴う求人増もあるが、学卒求人及び中途採用での幅広い雇用状態にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月の有効求人倍率は0.87倍とまだ1倍を超える状況にはないが、3か月前からすると0.15ポイント上昇している。
		民間職業紹介機関（社員）	周辺企業の様子	・九州に進出する自動車関連業界、銀行、生命保険、損保間の競争激化による金融業界の求人が依然活発である。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・大学生を中心とした新卒の求人が好調である。北部九州は自動車関連産業などで期待できる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・学卒求人と新出企業を除き、求人数が少なくなっている。新規求人倍率も前年を下回っている状態である。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・3か月前と極端には変わらない。ただし、秋の採用に向けて、求人への依頼が堅調である。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・例年、アウトソーシング業のお歳暮シーズンに向けた短期雇用が増加するが、今年は例年に比べ手ごたえが感じられない。
悪くなっている	-	-	-	